

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】令和 7 年 4 月 28 日(2025.4.28)

【公開番号】特開 2023-162228(P2023-162228A)

【公開日】令和 5 年 11 月 8 日(2023.11.8)

【年通号数】公開公報(特許)2023-210

【出願番号】特願 2023-129003(P2023-129003)

【国際特許分類】

C 08 L 1/08(2006.01)

10

A 61 K 8/02(2006.01)

A 61 K 8/19(2006.01)

A 61 K 8/27(2006.01)

A 61 K 8/44(2006.01)

A 61 K 8/36(2006.01)

A 61 Q 1/00(2006.01)

A 61 Q 17/04(2006.01)

A 61 Q 1/12(2006.01)

A 61 Q 1/10(2006.01)

A 61 Q 1/06(2006.01)

20

A 61 Q 19/00(2006.01)

A 61 K 8/40(2006.01)

A 61 K 8/73(2006.01)

【F I】

C 08 L 1/08

A 61 K 8/02

A 61 K 8/19

A 61 K 8/27

A 61 K 8/44

A 61 K 8/36

30

A 61 Q 1/00

A 61 Q 17/04

A 61 Q 1/12

A 61 Q 1/10

A 61 Q 1/06

A 61 Q 19/00

A 61 K 8/40

A 61 K 8/73

【手続補正書】

40

【提出日】令和 7 年 4 月 18 日(2025.4.18)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

セルロース誘導体粒子及び表面処理化合物を含んでおり、

上記セルロース誘導体粒子の体積基準のメジアン径が 0.08 μm 以上 100 μm 以下

50

であり、

上記表面処理化合物が、長鎖アルキル基を有する有機化合物及び／又は無機粉体であり

、

上記無機粉体の体積基準のメジアン径が、上記セルロース誘導体粒子の体積基準のメジアン径の 1 / 3 以下であり、

上記表面処理化合物の含有率が 1 . 0 重量 % 以上 5 0 . 0 重量 % 以下である、組成物。

【請求項 2】

上記長鎖アルキル基の炭素数が 8 以上 2 2 以下である、請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 3】

上記有機化合物が、カチオン性界面活性剤及び金属石鹼から選択される化合物、又は N - ラウロイル - L - リジンである、請求項 1 に記載の組成物。 10

【請求項 4】

上記表面処理化合物が、ステアリン酸亜鉛、N - ラウロイル - L - リジン、窒化ホウ素及び酸化亜鉛からなる群から選択される 1 種又は 2 種以上である、請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 5】

上記表面処理化合物の含有率が 3 . 0 重量 % 以上 1 0 . 0 重量 % 以下である、請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 6】

上記セルロース誘導体が、炭素数 2 ~ 2 0 のアルコキシル基又は炭素数 2 ~ 4 0 のアシル基を有している、請求項 1 に記載の組成物。 20

【請求項 7】

上記セルロース誘導体がセルロースアシレートである、請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 8】

上記セルロース誘導体がセルロースアセテートである、請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 9】

上記セルロース誘導体の総置換度が 2 . 0 以上 3 . 2 以下である、請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 1 0】

上記セルロース誘導体粒子は、真球度が 0 . 7 以上 1 . 0 以下、及び、表面平滑度が 8 0 % 以上 1 0 0 % 以下である、請求項 1 に記載の組成物。 30

【請求項 1 1】

請求項 1 から 1 0 のいずれかに記載の組成物を含む、化粧品組成物。

【請求項 1 2】

体積基準のメジアン径 0 . 0 8 μ m 以上 1 0 0 μ m 以下であるセルロース誘導体粒子と、表面処理化合物と、を乾式混合する混合工程を有しており、

上記表面処理化合物が、長鎖アルキル基を有する有機化合物及び／又は無機粉体であり

、

上記無機粉体の体積基準のメジアン径が、上記セルロース誘導体粒子の体積基準のメジアン径の 1 / 3 以下である、請求項 1 に記載の組成物の製造方法。 40

【請求項 1 3】

上記混合工程前に、上記表面処理化合物を粉砕する粉砕工程をさらに有している、請求項 1 2 に記載の製造方法。